

六月「臨時総会」

日時：2010年6月9日（水）

18:30～19:30

場所：かでる2・7 820研修室

議 事 録

1. 開会 大越委員長
2. 国歌ならびにJCソング斉唱
3. JCIクリード唱和 古川副委員長
4. JC宣言朗読ならびに綱領唱和 斉藤慎也委員
5. 定足数の確認 大越委員長

定足数 議決権総数132名

出席者数 74名 委任状数 40名 合計114名

6. 議事ならびに資料の確認 大越委員長

(1) 2010年度（社）札幌青年会議所 年間事業計画変更（案）及び年間事業フレーム変更（案）承認の件

(2) 2010年度（社）札幌青年会議所 例会計画変更（案）承認の件

(3) 2010年度（社）札幌青年会議所 第24回国際アカデミー誘致立候補（案）承認の件

(4) その他

7. 議事録署名人ならびに作成者の指名 玉腰理事長
議事録署名人／東委員長・林委員長
議事録作成者／総務運営委員会

8. 理事長挨拶 玉腰理事長

皆様こんばんは。本日はお忙しい中、そして急な召集にも関わらず、このように数多くのメンバーにお集まりいただきました事を、心から感謝申し上げます。

私は、つい先ほど千歳空港からこちらの会場に着きました。ASPACに行っておりました。その帰りに、昨年の日本JCの議長・委員長の集まりがありまして、1箇所寄り道をしていたのですが、ASPACに行って非常に沢山感じた事がありました。何よりも嬉しかったのは、我々札幌青年会議所を代表して、海野副委員長が国際の舞台上で活躍している、その雄姿を見ることが出来たこと。そしてそんな仲間を支えようと駆けつけた仲間が沢山居た、ということです。それだけではなく、北海道地区協議会としてブース出店をされていた中で、直前理事長も鉢巻を巻き、40度近くの暑い熱帯夜の中を、「北海道です。よろしくお願いします。」と一生懸命お菓子を配っておりました。そして私は、昨年日本JCに出向させていただいて、本当に数多くの友人と「元気にしていますか」「お陰様で元気にさせていただいております」と声をかけあって参りました。本当に数多くの仲間が、全国には、世界にはこんなに居るのだと、改めて再認識して参りました。本日のこの臨時総会と、話は違いうようで何ら違わないと私は思っております。

今日、臨時総会で皆様に審議をしていただきたい、国際アカデミー誘致立候補。私が国際アカデミーを良いなと思ったのは、昨年、日本JCの委員長をさせていただいた時のことです。何度も理事会で話を聞いている方は居ると思うのですが、私の昨年の日本JC委員会に、グループの幹事という方がいらっしゃいました。成島さんという女性で、その方が何故日本JCの幹事を受けられたかということ、グループの幹事を引き受ける条件として、国際アカデミーに行かせて貰うことが出来るのだと、目を輝かせて私にその話をよくしておりました。そんな彼女は昨年11月、他界しました。彼女は、国際アカデミーに出て、世界中の仲間と、そしてその地域の素晴らしさを知ることが出来る、こんなに素晴らしい事業があったのかと、凄く喜んで話をしておりました。私も国際アカデミーに行ったことが無く、解らなかったもので、国際アカデミーの委員長とは、よく話をさせていただいておりましたが、本当に世界の国の中心人物となるであろう方々が、その地域に集まって一緒になって勉強する。そしてその地域を知って、世界中に戻って行く。そんな会議が出来るのであれば、是非やりたいという気持ちが私の中に芽生えました。その根底にあったのは、私は2000年世界会議を経験しておりますが、当時現役だったメンバーと、死ぬまでその話でお酒が飲めるということです。今の現役メンバーに、一つの事業に対して皆で一致団結してこれをやり遂げたのだという心の勲章を、小さな小さな心の勲章を、皆様にプレゼントしたい。そんな気持ちから、私から三役にさせていただきました。そんな中、三役でも色々札幌

幌の現状はどうだろうかというような話もありました。これも事実です。しかしながら、最後は全メンバーと共に、国際アカデミーをやりましょう、ということになりました。正直言って、手を挙げたからすぐに取れるというものではありません。しかしながら、何かを皆でやろう。前向きに、同じ方向に向かって走る、それが大切なのではないか。ということで、一致団結してやりましょうと、先日の理事会で満場一致を以ってご承認をいただきました。本日は皆様に、最終的な審判をいただきたい、そう思っております。しかしながら、私がこのような話をしたからと言って、反対に手を挙げてはならないということでは決してありません。手を挙げたのであれば、最後まで責任を持って最後まで行動しなければならない。そして、決定したのであれば、たとえ反対に手を挙げたとしても、誠心誠意前進する。それが青年会議所でございます。

皆様には、一票を行使するという権利があります。ですからこれは、私の気持ちをお伝えするのであって、決して強制ではありません。これから上程があると思います。皆様がどのように捉えるか、それが札幌青年会議所にとって素晴らしい事であると思えば賛成していただきたいし、これは難しいと思うのであれば、素直に反対をしていただきたい。しかしながら、どちらでもない、棄権というのだけは、やめていただきたいと思います。これは全メンバーの権利ですから、どちらかに手を挙げていただきたいと思います。これは全メンバーに与えられた権利は平等であります、日本ＪＣやＪＣＩに出向できるメンバーは限られており、出向が難しいメンバーのためにも、少くく日本ＪＣやＪＣＩのメンバーと触れ合う機会があっても良いのかと思います。そんな国際アカデミーになれば素敵かなと、私は思っております。本日は最終最後まで、どうぞよろしくお願いいたします。

9. 直前理事長挨拶

佐々木直前理事長

皆さん、こんばんは。本日は、六月「臨時総会」に大変多くの皆様にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。冒頭理事長からもありました通り、先日のシンガポールでのＡＳＰＡＣには、玉腰理事長をはじめ、海野副委員長、そして多くのメンバーにサポートしていただき、無事に北海道地区協議会のブースも大変好評の後、多くの協賛をいただきましたスイーツでしたが、北海道をＰＲできたと思います。日本の中でも、特に暖かいシンガポール、台湾には、北海道は大変人気がある、そんな地域だという事を改めて感じました。札幌ＪＣからのスノーフェスティバルの絵葉書、大変好評でした。スノーフェスティバルというものは凄く知名度があり、是非行きたいというような、雪を見る機会のない地域の方々ですから、北海道、札幌はまだ観光都市としての可能性を多く感じる、そんな場面でもありました。

ＡＳＰＡＣに行く前日に、鳩山首相が辞任ということで、この５年間に、安倍さん約１年、福田さん約１年、先輩でもあります麻生さん約１年、鳩山さん２６６日です。ＪＣの理事長ではないのに、日本の総理大臣が１年１年で変わってしまっています。ＪＣの理事長でも、１年で出来ることは限られているのに、日本のリーダーである首相が１年毎に変わっています。是非皆様にも、このことを考えていただきたいと思います。玉腰理事長は、ＪＣインテリジェンスということで、現状から得られる様々な情報を自分でしっかり取りに行き、また自分なりの哲学や信念を持って、情報を鵜呑みにするのではなく、今何がどんな状態でどうあるのか、自分の価値観をしっかりと取り入れて、物事を捉えて感じて欲しいと思います。首相が悪いということは、議員内閣制ですから、国民にその責任があると思います。来週には参議院の公開討論会ということで、津田副委員長が出向で頑張っておりますが、是非、多くのメンバーの皆様には、様々な想いを持って、国政選挙にも参加していただきたいと思います。

本日の議案に上がっています、しっかりと我々のインテリジェンスを磨くための国際アカデミーということで、大変多くの国際的なＶＩＰの方、または色々なネットワークを持った素晴らしい方々が集まる、そういうものだ聞いております。北海道地区協議会では、旭川から出ております、道北の石田副会長が、昨年鹿児島で行われた国際アカデミーに参加したということです。大変自信たっぷりに、私に素晴らしい会議だという事を、よくよく隣で聞かされております。札幌も誘致に前向きに検討しているという話をさせていただいたら、是非、そんな素晴らしい機会があるのであれば、という話をいただいております。２月からの理事会、会議体や各委員会で、それぞれで意見が出て揉まれたという話も聞いております。そして今日、臨時総会でございます。色々と疑問があれば、是非質問していただきたいと思いますし、自分のこととして、今日の臨時総会を重く受け止めていただき、そしてこれからこの日本を、我々が何とかしなければいけないという大きな気概を持って、単なる負担感、やらなければいけないのだということではなく、もっとその先に見える大きなものを、志を持って審議に臨んでいただきたいと思います。

私は今日この後、４ＬＯＭ合同で岩見沢でのブロック会長訪問というものがありますので、審議終了後、監事講評を聞くことなく中座させていただくことをお許しいただいて、直前理事長の挨拶とさせていただきます。本日は一日よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

10. 議長の選出

定款 第4章第31条に基づき本総会の議長を選出。
岡澤専務理事より玉腰理事長を推薦。
賛成多数により玉腰理事長に可決。

11. 審議事項

(1) 2010年度(社)札幌青年会議所 年間事業計画変更(案)及び年間事業フレーム変更(案) 承認の件

北嶋副理事長

資料に基づき説明。

【質疑】

なし

【採決】

全員一致で可決。

(2) 2010年度(社)札幌青年会議所 例会計画変更(案) 承認の件

岡澤専務理事

資料に基づき説明。

【質疑】

なし

【採決】

全員一致で可決。

(3) 2010年度(社)札幌青年会議所 第24回国際アカデミー誘致立候補(案) 承認の件

岡澤専務理事

パワーポイントを作成いたしましたので、ご覧ください。

白井常務理事

資料に基づき説明。

【質疑】

田邊副委員長

専務から、世界会議やASPACも検討したというお話でしたが、その検討の内容を教えてくださいたいと思います。

岡澤専務理事

札幌青年会議所はまず2000年に世界会議を行いました。またASPACも過去2回、全国大会も過去2回やっております。唯一やっていないのが国際アカデミーでございまして、現状130名というメンバーで、果たして世界会議レベルのものが出来るのか、そしてASPAC、全国大会と言ったものも出来るのか。そう考えると、言葉は悪いかも知れませんが、現状では国際アカデミーという比較的負担感の少ないものが最適だろうという判断に至りまして、選定いたしました。

田邊副委員長

具体的に、例えばどれくらい的人员が必要なのか、どれくらいの経費がかかるかなどを教えてくださいたいのですが。

岡澤専務理事

人数につきましては、おそらく2から3委員会のメンバーで十分出来るものと考えます。また費用に関しましては、こちらFAQに記載しておりますが、数百万で行っているLOMもありますし、昨年の鹿児島のように、1,700万円かけたところもあります。また、札幌青年会議所が仮に誘致を果たした場合、どのくらいの費用がかかるかというのは、今後の議論にて決めていきたいと思います。

田邊副委員長

ASPACや世界会議も検討されたのですよね。

岡澤専務理事

世界会議レベルになりますと、2億円の話になります。現状、特別会計が1億2千万円ありますが、それでも足りません。当然、協賛等を募る必要がありますが、果たして、現状のメンバーで、それだけの協賛を集められるかどうか、ということも議論した上で、国際アカデミーということになりました。

奥山副委員長

11月の世界会議、大阪大会でPRということでしたが、誰が主体となって、具体的にどのようなPRをするのでしょうか。

岡澤専務理事

仮に、本議案が通った場合、今後の主体者としては、常任理事4名を考えております。またPRの内容に関しましては、今年の京都会議でもありましたように、玄関先等で、大阪・世界会議の玄関先、ヘッドクォーターなのかどうかは解りませんが、そこで横断幕を持ってPRしたいと思っております。

奥山副委員長

違う質問ですが、他に立候補している所は、どこがあるのでしょうか。

岡澤専務理事

現状では、富山青年会議所が、今年を含め3年間、立候補し続けております。

森田副委員長

今回、立候補するにあたり、落選しても3年間は立候補し続けるとした理由と、今後何か問題が発生して、それを変更することが可能なかどうかという事をお聞きしたいと思います。

岡澤専務理事

今後3年間立候補し続けるとした理由ですが、まず、通常青年会議所は、継続事業申請というものは3年となっており、それに倣ったということと、また、2010年、11年、12年で現在在籍しているメンバーの半分以上が卒業します。その半分以上が、責任をとって貰えるだろうということで、3年で申請しています。今後3年間で、現役メンバーが入れ替わる度に、賛成の方、反対の方、いらっしゃると思いますが、半分の方はまだ残る訳ですから、その方たちに、責任と言っては言葉が悪いですが、しっかりと責任を担って貰う、ということで、3年間といたしました。さらに、今後3年間という縛りをつけて、その間に変更が可能かどうかということですが、これもまた当然に、総会で変更は出来ると考えております。

今西副委員長

60周年事業が2011年に行われますが、我々の委員会の名前の通り、次年度60周年を考える活動を行っております。国際アカデミーと60周年とのバランスをどのようにお考えでしょうか。

岡澤専務理事

別物と考えております。逆に、60周年という節目の年に、国際アカデミーが誘致出来て開催となると、60周年に花を添えるのかなと思います。また、バランス云々に関しましては、来年60周年、大事な年でございます。ただし、60周年の式典ばかりをする訳ではございません。当然、ブルーアースもございまして、それ以外の事業も沢山あります。その中に、国際アカデミーが盛り込まれるという事でございしますので、その点は誤解の無きようお願いいたします。

今西副委員長

来年2011年に、60周年で色々な活動を行いまして、その中でLOM一丸となって動くという事は出来ると思うので、例えば、翌年に継続的な運動として、国際アカデミーを誘致するという形に変更する、ということではいかがでしょうか。

岡澤専務理事

その点に関しても議論しました。先ほど理事長挨拶で、玉腰理事長がお話しされましたように、本年度手を挙げたからと言って、100%誘致出来るというものでは、決してございません。そんなに甘いものではございません。現に、富山青年会議所は、3年間手を挙げ続けて、まだ誘致を果たしておりません。ただし、こういった大きな事業を誘致するために、手を挙げ続ける、発信し続けるということが大事だと思っております。

【採決】

玉腰理事長

それでは採決に移ります。議決権総数122のうち、賛成106、反対13、棄権3となりました。よって、定款第5章第33条及び第35条に基づき、賛成多数ということで可決承認とさせていただきます。

(4) その他

削除。

12. 協議事項

(1) その他

削除

13. 報告事項

(1) その他

削除

14. その他

(1) その他

削除

15. 監事講評

荒木監事

皆様、六月臨時総会、慎重審議お疲れ様でした。私は今、非常に安心しております。と申しますのは、議案が可決されたからではなく、しっかり反対に手を挙げた、自分の意見を貫いたメンバーが居たということに安心しております。また、その勇氣に心から敬意を表したいと思います。誤解しないでいただきたいのは、反対意見を煽る訳ではございません。私はやはり、この青年会議所という組織も、自分の信念に基づいてやって欲しいというように思います。それ以外の理由で、自分の意見を曲げるということはないでいただきたいと思います。そういう意味で、本日、実は心配しておりました。私の耳にも、反対という意見は聞こえておりました。そうであるのに、この臨時総会が満場一致で可決承認となってしまうたら、これは私が愛する札幌青年会議所の姿ではないし、この組織の未来は暗いと思ったからです。そういった意味で、今日の総会で、自分の意見を貫いたメンバーが居たということに、安心した次第です。ただよく言われる事ですが、こうして賛成多数で可決承認され、誘致に立候補するという事が決まった以上、是非心を一つにして、反対に手を挙げたメンバーも、協力していただきたいと思います。また、その大前提として、是非執行部の皆さんにお願いしたいのは、やはりまだ納得がいていないメンバーがいる訳ですから、今日、可決承認を得たから、もうこれで突っ走るという事ではなく、2月3月に専務理事が委員会回りをされたと聞いておりますが、引き続き、全メンバーの心からの納得を得る努力を継続していただきたいと思います。執行部がそのような努力をして初めて、決まった以上は皆でやるという言葉が正しい意味を持つものだ、そう私は思っております。それと、上程の中にもありましたように、極論を言えば、この国際アカデミー誘致の上程に関しては、誘致をすることが目的なのではなく、LOMが一丸となることが目的だと言ってもいいものだというように私は思いますので、尚のこと、そのLOMが一丸となる努力を、執行部の皆さんには、怠らずにやっていただきたいと思います。今後、本日可決承認された国際アカデミー誘致に向けた取り組みによって、札幌青年会議所が、上程にあったとおり、活性化され一丸となることを祈念いたしまして、私の監事講評とさせていただきます。有難うございました。

鈴木監事

皆様、六月臨時総会、お疲れ様でした。通常総会の他、八月、十一月に臨時総会が開かれておりますが、2003年に入会して以来、こういったイレギュラーな総会は、初めてではないかと思います。そんな中今日は、今回誘致が出来なかったとしても、3年間一丸となるような、こんな事業をやりたいのだと、玉腰理事長が語った夢に対して、皆様の可決をいただいた、そんな大事な総会ではなかったかと思ひます。国際アカデミーの話に、先ほど荒木監事も終始しておりましたので、私も少しだけお話しいたします。私は2004年に、国際アカデミーに国内デリゲイツとして参加させていただきました。今日、勿論反対されるメンバーが居て然るべきだと思ひましたし、荒木監事も仰っていましたが、その意見をしっかりと述べられた事には、敬意を表したいと思ひます。ただ、国際アカデミーに参加させていただいた私といたしましては、異文化の方々と様々なことについて議論を重ねながらやっていくその会議において、お互いを知ることから始めていきます。反対された方の話もちゃんと聞く場面を、執行部の皆さんには求めたいと思ひますし、現役の中から唯一参加させていただいた者でございますので、岡澤専務理事がもし今後委員会を回るということでございましたら、私も、自分なりの経験を通じて、皆様とお話しさせていただきたいと思ひますので、いつでも呼んでいただければと思ひます。

先週の金曜日から開催された、シンガポールでのASPACに行きまして参りました。居ない間に、いつの間にか首相が代わってしまっていて、佐々木直前理事長の挨拶にもありましたが、単年度のようにコロコロと首相が代わるこの国ですが、行く途中、成田空港から7時間以上もかかるものですから、成田空港で本を1冊手に取りまして、読んで行く事にしました。ドラッガーの本なのですが、マネジメントやリーダーシップについて書かれた本でしたが、首相が代わったこと、また、シンガポールという国について色々な事、情報を見聞きする中で、考える所が多くありました。ドラッガー曰く、リーダーシップ

にはカリスマ性は不要である、唯一必要なのは、真摯な気持ちで物事に当たること、ということです。今日国際アカデミーに反対された方、どんなデータを元に反対されたのか解りませんが、本当に真摯な気持ちで、やっぱりやって良かったと思えるようなものになるのではないかと思います。玉腰理事長が昨年出向されておりました、日本ＪＣのＪＣインテリジェンス確立委員会でしたか、様々なデータを元に、皆さんは様々な事象を判断すると思いますが、データがただそこにあるだけでは、情報にも何にもならない。自分なりにそのデータを磨いて、計算して、その情報が向くべき方向にきちんと向けて、仕事に活かして初めて、情報としての価値が見出せるのだと思います。ここにいる皆さんは、会社において、社会において、また家庭において、リーダーであり、またこれからのリーダーになるのだと思います。是非、海外から来るリーダー、またはリーダーとなるべき方が来るこの会議を契機に、益々自分に磨きをかけていただく、そんな事を願いながら、私は卒業してしまいます。とりとめもない話になりましたが、自分が受け取った情報をきちんと精査することが大事なのだと思います。今年、千葉委員長が随分と進めております。是非皆さんは、リーダーとなるためにも、沢山の情報を自分で精査するために、やっていただきたいと思います。簡単ではございますが、監事講評とさせていただきます。本日はお疲れ様でした。有難うございました。

16. 閉会

議事録署名人 東 岳夫

議事録署名人 林 将告